

科目名	密教学概論A							学 期	後期
副 題	密教学の思想				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M2-01-054	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要
インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標
密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

- 授業計画**
1. ガイダンス・密教総論
 2. インド密教
 3. チベット密教
 4. 中国・朝鮮密教
 5. 日本密教
 6. 密教の聖典（1） — 『大日経』 —
 7. 密教の聖典（2） — 『金剛頂経』 —
 8. 密教の聖典（3） — 『理趣経』 —
 9. 密教の聖典（4） — 『菩提心論』・『釈摩訶衍論』 —
 10. 密教の曼荼羅（1） — 胎藏曼荼羅 —
 11. 密教の曼荼羅（2） — 金剛界曼荼羅 —
 12. 密教の成仏論
 13. 密教の仏身論
 14. 密教の灌頂
 15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間
・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30分）。
・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60分）。

テキスト
講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等
①高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989年）、②金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989年）、③勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991年）、④松長有慶『密教』（岩波新書、1991年）など。

学生に対する評価
試験（60％）、講義参加の積極性（40％）

- ルーブリック(目標に準拠した評価)**
- (C) 基本的な密教の思想を理解できる。
 - (B) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
 - (A) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
 - (S) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他
配付資料を読んだり、テーマや思想について指名して答えてもらうので、予習・復習をしておくこと。